



## 「小・中学校のESDの現状と課題」

宇部市教育委員会 学校教育課 副課長 濱野 愛華

宇部市教育委員会では、令和4年3月に策定した第2期宇部市教育振興基本計画において、『「自立」と「共存同栄」宇部を愛し、未来を拓くひとづくり』を基本理念に掲げ、4つの基本目標と16の施策の柱ごとに具体的な取組を示しています。その中でも、基本目標2では、『共生社会の実現とSDGsの達成に向け人と人が助け合い、支え合う教育活動の展開』を掲げて、誰もが、お互いに人格と個性を尊重し支え合い、多様な人々のあり方を認め合える全員参加型の「共生社会」をめざしています。この共生社会実現の取組は、世界的な取組でもある「SDGs」の達成と重なり合う部分も多く、関連付けながらその達成に取り組んでいます。

小・中学校では、家庭から出るごみを減らすために、身近な段ボールでコンポストを作り、そのたい肥を使って花を育てたり、地域住民と協力して河川や海岸などの清掃活動に取り組んだりするなど、学習内容にESDの要素を取り入れた取組を行っています。



段ボールコンポストづくり

各学校が地球環境問題やエネルギー問題などの学習に取り組み、持続可能な社会の実現のために自分たちができることを体験活動として取り入れており、

令和5年度は『やまぐちエコリーダーズスクール』に市内小・中学校の26校が認証されました。このような特色ある取組を各学校がさらに充実したものにするために課題となっていることが、「時間」と「人材」の確保です。学校の教育課程において、各教科の学習や学校行事を実施する中でESDの時間を確保する難しさや、ESDに関する専門的な知識や指導経験を持つ指導者不足を解消する必要があります。そのために、各学校における教育課程の編成（カリキュラム・マネジメント）の充実を図り、時間を確保するとともに、宇部市の「出前講座」など行政機関や関係団体との連携強化を進めて多様な学習内容を実現することで、子どもたちが自ら考え、行動し、持続可能な社会を築くための力の育成をめざしています。



海岸清掃



### お知らせ

## 11月・12月上旬に開催の「かたって銀天」

11月 23日(土)・24日(日)

第二回 No.4 「動物の立場で人間のSDGsを考える」 講師：益田 文和

場所：銀天エコプラザ 2階 まちかどブックコーナー

時間：14時 ~ 16時 (両日とも)

12月 10日(火)

第三回 No.3 「高度情報社会をどう生きる」 講師：盛重 芳文

場所：シティマンション中山204号 セミナールーム 2F

時間：17時30分 ~ 19時30分

※かたって銀天お問い合わせ先：宇部市まちなか環境学習館(連絡先は下欄記載)



かたって銀天 掲載ページ

[http://ubekuru.com/blog\\_view.php?id=6152](http://ubekuru.com/blog_view.php?id=6152)

### 宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 JR宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し (近隣の有料駐車場等をご利用ください)

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail [ubekuru@gmail.com](mailto:ubekuru@gmail.com)

開館時間 9時~17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 土・日、年末年始(12月29日~1月3日)



HomePage



facebook



X



NPO法人うべ環境コミュニティ

# 自転車通学路点検ワークショップ報告 (厚南中学校にて、2024年8月)

宇部市立厚南中学校 生徒指導担当 山本 道夫

1学期、うべ交通まちづくり市民会議（通称：うべこまち）から、本校の自転車通学路の点検を生徒と一緒にやりたい旨の連絡をいただき、生徒の安全に関わることであればということで実施の方向で話はすぐにまとまりました。今回はその活動の概要を紹介させていただきます。

本校は宇部市の西部に位置し、厚南中校区は190号線からは離れているものの、宇部駅周辺を中心に、朝夕は慢性的な渋滞が起きるほど、車両の交通量が多い状況です。渋滞と同じ時間帯に生徒は登下校しており、今年度は重大な事故等は起きていないものの、いつ起きてもおかしくない状況であるとも言えます。また、全校生徒数403名に対し、自転車通学生の割合は38%にのぼります。休日や長期休業中は部活動生徒も自転車を利用しており、その数も含めると利用者は63%に及びます。改めて本校の自転車通学路の危険箇所と、交通ルールについて生徒とともに学ぶ今回の取組は重要でした。

実施日：第1回WS：7月26日（金）午前

第2回WS：8月2日（金）午前

参加者：生徒11名、教員3名、

うべこまちスタッフ6名、

宇部市道路整備課3名、山口県警2名

第1回は1時間程度、交通ルールやマナーについて事前学習を行いました。交差点模型で自転車と車両との出会い頭衝突と左側通行の大切さについて学びました。その後、3つの班に分かれ、自転車通行方法、危険箇所、注意点などについて生徒目線で確認し、写真を撮影し、第2回目のWSに備えました。



第2回は会議室で地図を広げ、調査ルートに沿って現地で気付いた危険箇所をマークし、付箋を貼って自転車通学路危険マップを作成しました。「カーブミラーはあるものの曇っていて見えにくく、ミラーとして役に立っていない」など、生徒目線ならではの意見も上がりました。



生徒の感想として、「交通ルールの大切さや、通学路の危険箇所について改めて認識することができた」などが挙げられました。今回の内容は11月の全校集会で発表する予定です。また、「危険箇所マップ」についても全校生徒に見てもらおうよう発表後、掲示する予定です。



## 寄贈図書紹介

マンガでわかる「日本の食の危機」方丈社刊  
銀天まちなかブックコーナー

原作・監修の鈴木宣弘さんは、「今だけ、金だけ、自分だけ」のキャッチフレーズで知られている農業経済学者、手間入りの作画は要三完さん。

登場人物は鈴木先生、稲垣家の夫婦と長男修斗、長女穂波、親戚の農家角栄叔父など。9章ごとに各々漫画で話の筋書きがわかりやすく示されたのち、修斗や穂波達と鈴木先生との質問対話形式で説明されていて、より一層理解が進む。

食料の自給は真の独立国の条件。江戸時代は自給率100%であった。現在日本の食料自給率はカロリーベースで38%と言われているが、化学肥料や、種子の海外依存などを考慮すると10%以下という試算もある。お金を出せばいつでも食料が買えるものではなく、一旦事有れば、真っ先に餓えるのは日本だともいわれている。防衛費よりも農業支援が大事だと言われる由縁である。

そもそも食料安保が確保されていない根本的な原因として、約80年前の敗戦以来、なおアメリカの実質的支配が続いており、食料に関しては、アメリカの余剰農産物の受け皿としての役割を負わされていること。

さらに量的な問題だけではなく、除草剤の主成分であるグリホサートの残留基準や、成長ホルモンを使用した牛肉等酪農製品の輸入に象徴されるように、EU等に比べて緩い基準で日本が標的になっていること。種子を独占して世界の食料を通して、世界を支配しようとする一部の悪質な勢力があり、行き過ぎた新自由主義あるいはグローバリズムの影響は日本のみならず、全世界にもアメリカそのものにも程度の差こそあれ、同様の影響を与えていて、各地で農民の抗議行動も起きている。日本もしっかりしなくては！。子どもからシニアまで、是非来館して手に取ってもらいたいと思う図書です。



- 第1章 不安  
もう始まっている食料危機
- 第2章「量」も「質」も危ない  
だれも知らなかった日本の食の現実
- 第3章 悪い夢  
コオロギ食と野菜嫌い
- 第4章 安全か利益か  
農家が直面している現実
- 第5章 気づき  
ホンモノの味と出会うこと
- 第6章 安全幻想の終わり  
標的にされていた日本の食卓
- 第7章 酪農、ヤバいです!!!  
今日も続く過酷すぎる現実
- 第8章 転機「本当のこと」を知ったとき、何が見えてくるか
- 第9章 笑顔のある明日へ  
自分が動けば、変えられる